

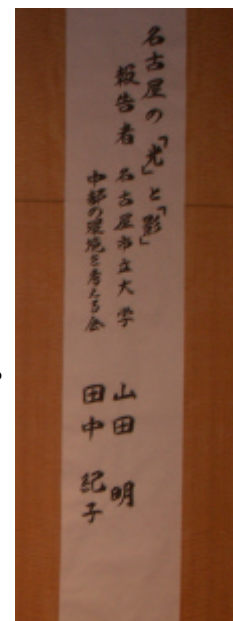
犬山の街並みと講演

3月下旬に民主主義科学者協会法律部会の春季合宿研究会が犬山であり、初日の全大会「名古屋の『光』と『影』」で報告した。全国から法律関係の研究者が集まる研究会であり、「元気な名古屋・愛知」の光と影をビジュアルに伝えるために、時間をかけて報告の準備をした。パワーポイントやビデオを準備するために、早めに会場に到着したので、犬山の街並みを散策した。



平日の昼前なので、観光客はまばらであったが、じっくりと散策できた。1年前にゼミ生の犬山のまちづくりをテーマにした卒論を確認するため犬山を駆け足で歩いたが、その時に比べても街並みがかなり整備された感じであった。NPO法人「犬山城下町を守る会」作成の案内図により、しばし城下町を散策した。江戸時代から呉服商を営んでいた商家、登録文化財磯部家住宅は代表的な町家であり、じっくり見ることができた。主屋とともに、裏座敷や土蔵もなかなか格調高いものがあった。

肝心の講演であるが、まず私が総論的に名古屋・愛知の「元気さ」の現実と背景、いくつかの問題点などを写真や映像を使って話した。そのあと「中部の環境を考える会」の田中紀子さんが愛知万博について、その経過を住民運動や環境問題などに関連づけて、パワーポイントを使ってビジュアルに報告した。この「現地企画」が全国の研究者にどう評価されたか気になるところだが、腰痛に悩まされながらの犬山散策と講演であった。



(2007年4月30日 記)